

2014年6月2日

昭和フロントが「第45回ストアフロントコンクール」 受賞作品を発表。

三和ホールディングス株式会社（本社：東京都新宿区／社長：高山俊隆）の連結子会社である昭和フロント株式会社（本社：東京都千代田区／社長：長谷川伸二）は、「第45回ストアフロントコンクール」受賞作品を発表しましたのでお知らせします。

1970年から始まったストアフロントコンクールは今回で45回目を迎え、業界で最も古い歴史があり、歴代の入賞作品は技術性、デザイン性に優れ、業界の注目を集める作品として高い評価を受けています。

今回は応募総数1,491件を数え、全国より優れた作品が数多く寄せられました。「店舗建築部門」「一般建築部門」では、デザインや建物全体との融合などを中心に、また今年から新設された「アイデア部門」ではアルミ型材の可能性を拓く魅力ある作品かどうかをポイントに審査がおこなわれ、グランプリのほか部門ごとに賞が決定しました。

コンクール総評

今回から、店舗部門、一般建築部門に加えて、ユニークな発想と技術を称えるアイデア部門が始まりました。始まったばかりで周知期間が短かったのですが、今後期待されるのは、アルミ型材の可能性を追求する実験的で異色のアイデアです。

今回、例年に劣らず1491件の応募が有り、ショッピングセンター、カーディーラー、複合施設、図書館、学校、オフィス、クリニックなど、さまざまな建築においてフロント材が活躍している様子がよく分かりました。設計者、施工者、メーカー代理店をトータルに評価することによって、現場での作業からフィードバックする形で、作りやすく、美しいデザインのフロントが益々増えることを期待します。

審査委員長/八木 幸二氏

グランプリ受賞 「ボルボ・カー名東」

使用製品

NL400、FA120 ドア





(審査委員長コメント) 一般的なロードサイド店舗の派手で強烈なデザインとは違い、シンプルでエレガントな印象のファサードを構成しているのは、NL400 シリーズのリブガラス枠である。ガラスを透明とフロストに使い分けたファサードは、夜には行燈のように輝き、この種のフロント材の使い方として理想的な形と言える。昼間も、中の車をはっきり見せながら、内部空間の大きなボリュームを感じさせ、FA120 ドアとエントランス周りを黄色で強調することによって白い箱に強いアクセントを与えている。

建築全体のデザインとロードサイドフロントのすっきり感が上手く融合していて、小粒ながらグランプリに値すると評価した。

審査委員長/八木 幸二氏

店舗建築部門 金賞受賞 「函館蔦屋書店」

使用製品 アソート



(審査委員コメント) シンプルな建物を強調するかなのような外壁の素材。目新しい素材の使い方が、より新鮮に訴えて来る力強さ。使用されているアルミサッシの素材が、建築の壁面を強調する素材と共鳴をしている。又、構造的なブレスの見え方などが、単純に見える既製品のアルミ素材と性質の違う素材の共鳴性によって、シンプルでもランドマーク的な建築のデザインに仕上がっている。

審査委員/牛建 務氏

一般建築部門 金賞受賞
「一関市立 花泉図書館」

使用製品 アソート、FA120ドア



(審査委員コメント) 公共施設や学校、オフィス等は今まで比較的地味でおとなしい建築物になることが多かったが、今回この第2部で選ばれた3作品はどれもが強い個性と主張を兼ね備えたものであった。特に金賞に輝いた一関市立花泉図書館は、木の構造体とフロント材とがダイナミックかつ美しく構成されていて、独自性を保ちながらも木のぬくもりが感じられるあたたかい空間になっている。今後もこのようなカテゴリーの建築に面白みと豊かさを感じられるものが登場してくる事を期待したい。

審査委員/橋本 夕紀夫氏

アイデア部門 優秀賞受賞
「浄心の家」

使用製品

汎用材、大型ハンガー引戸



(審査委員コメント) コンクールともなると、どうしても大型作品に目を奪われがちになる。止む得ぬ事ではあるが、第1部・第2部を本流とすれば、第3部は傍流の域を拭うことができない。ところが、今回この第3部の入賞3作品はお見事の一語に尽きる。小作品ではあるが本流にも勝るとも劣らぬ素晴らしいものである。設計者の意図を具現するに苦勞はつきものであるが、NL300、ハンガー、引戸、汎用材等々ある材料すべてを使って頭と持てる技能を縦横に駆使しての製作であつたらうと推察される。外からフロント製作の醍醐味を堪能させて戴いた。

審査委員/湯浅 滋氏 (株式会社ユアサ 代表取締役会長)